す。最後に、学会のオーガナイズをして下さった田川義晃 先生・岩里琢治先生、寄稿の機会を与えて頂きました宮田 麻理子先生にこの場をお借りして深く御礼申し上げます。



学会参加者の集合写真 (写真提供:京都大学 田川義晃先生)

参加記 III

第36回 日本神経科学大会および 若手研究者国際交流会に参加して

東京女子医科大学 医学部 第一生理学助教 竹内 雄一

遅れてきた梅雨真っ直中、去る 2013 年 6 月 20 - 23 日に京都国際会館において開催された第 36 回日本神経科学大会に参加しましたので、駆け出し研究者による主観的拙文で報告させて頂きます。

先ず前日同会場で開催された、若手研究者国際交流会に参加しました。この交流会はトラベルアワード受賞した海外若手研究者と日本の若手が、飲食しながらオープンにポスター発表・討論を行うものです。受賞者は9人で、出身はアメリカ、イラン、エジプト、台湾、中国、オーストラリアなどと幅広く、研究分野も分子生物学から臨床研究まで様々でした。計32演題で2時間確保されていましたので、基本的なことから納得のゆくまで話し合うことが出来ました。また英語で発表・討論する良い機会になり大変有意義でしたので、若手の方には是非今後の参加をお勧めいたします。全体的には大学院生やPh.D. 取得直後の方が多かったようです。

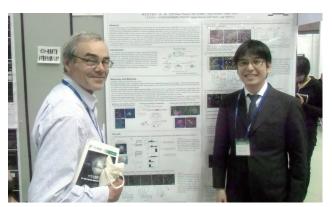
本大会では、2日目まで主に共同研究者との顔合わせやセッション参加を通して、自身の研究に直結する情報交換を行いました。また最近気になる研究手法について、色々と生の声を聞いてきました。具体的にはウイルスベクターによる遺伝子導入法、光遺伝学的神経活動操作法、多ニューロン Ca2+ 画像法、および覚醒動物からの細胞外記録法です。これらの手法は近年神経科学大会でも関連学術誌でもよく見かけるように思い、少しずつ身近になってきていると感じています。さらに今回は合同大会ということで、

ウェットな実験データから新たな意義や予測を導き出すには計算論も必要だ!という考えのもと、計算論を含むセッションにも積極的に参加しました。特に印象に残ったセッションは坪泰宏、深井朋樹両先生がオーガナイズされたシンポジウム "脳の確率的な計算原理"でした。第一線の先生方が皮質回路の動作原理からヒトの社会性まで熱く講演され、実験家の私にとっても非常にエキサイティングなセッションでした。今後理論家と実験家とが相互理解を深めて手を取り合うことが、神経科学分野でイノベーションを生む一つの方向性かもしれないと感じました。

大会3日目に宮田麻理子先生のもとで行っている研究の ポスター発表を行いました。内容は"生後発達期マウス視 床で生じる求心性線維の刈り込みは体性局在地図の先鋭化 を担う"というものです。発表には嬉しいことに、体性感 覚路の機能解剖で著名な Martin Deschênes 先生が来訪し て下さいました。実は前日に、シンポジウムでの講演を終 えて会場を見回られていた Deschênes 先生に名刺に書き 入れたポスター番号をお渡ししながら宣伝させて頂いたと ころ、"I'll be there tomorrow."と言って頂いていました。 押しかけにも関わらず、Deschênes 先生も案内をされて いた古田貴寛先生も嫌な顔一つせずに対応して下さり、大 変感謝しています。幸い Deschênes 先生は我々の研究を 好意的に受け止めて下さったようで、今後の研究生活への 励みになりました。ポスター掲示は半日のみでしたが、他 にも多くの先生方から重要な示唆や討論を賜りました。こ の場を借りて厚く御礼申し上げます。



梅雨の京都国際会館



Deschênes 先生と筆者